

授業科目名： 幼児と人間関係	授業形態： 講義	授業担当者： 澤瀬 文子（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児がいかに人とのかかわる力を培っていくかを理解する。 【授業の概要】 乳幼児期における対人関係の発達過程、向社会的行動の発達の变化、社会的要因の影響、自己理解を促す演習			
【授業計画】 第 1 回：現代社会の中の幼児 第 2 回：0 歳児の人とのかかわり 第 3 回：1～2 歳児の人とのかかわり 第 4 回：3 歳児以降の人とのかかわり 第 5 回：遊びの中での人とのかかわり 第 6 回：生活の中での人とのかかわり 第 7 回：自立と依存 第 8 回：事例検討 1 第 9 回：向社会的行動 第 10 回：グループワーク（自分の持ち味を生かすとは） 第 11 回：事例検討 2 第 12 回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援 第 13 回：園、家庭、地域の生活と人とのかかわり 第 14 回：グループワーク（行動原理） 第 15 回：総括			
【テキスト】 『最新保育講座 8 保育内容「人間関係」』森上史郎・小林紀子・渡辺英則編 ミネルヴァ書房			
【参考書・参考文献等】 適宜資料配布			
【学生に対する評価】 学習内容の振り返りレポート、授業に取り組む姿勢、試験			
【履修にあたっての留意点】 学生の主体的参加を期待する観点から、教科書の予習を行い自らの実習での体験を踏まえて問題意識を持って臨んでもらいたい。			
【実務経験】 心理職として乳幼児健診等での相談業務に従事した実務経験を活かし、多角的に関係性を見る目を養っていききたい。			

授業科目名： 幼児と環境	授業形態： 演習	授業担当者 松好伸一 中西俊紀	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 「環境による保育」の理念・意味の理解。環境が幼児の発達にどのような影響を及ぼすのか、また幼児が自ら環境に働きかけるとは等について学び、保育環境についての学びを深める。 【授業の概要】 テキスト及びハンドアウトなどを利用し理論学習を進めながら、グループワークを通して様々な考え方を検討する。「誰のための環境なのか」「環境整備の目的とは」など具体的にグループワークに取り組むことで、学びを深めていく。 【授業計画】 第1回：保育と「環境」 第2回：領域「環境」とは 第3回：子どもの育ちと領域「環境」 第4回：子どもを取り巻く人的環境・1 第5回：子どもを取り巻く人的環境・2 第6回：子どもを取り巻く物的環境・1 第7回：子どもを取り巻く物的環境・2 第8回：子どもを取り巻く社会的環境 第9回：子どもを取り巻く自然環境 第10回：子どもの生きる力をはぐくむ環境・1 第11回：子どもの生きる力をはぐくむ環境・2 第12回：子どもを守り育てる環境 第13回：気になる子どもと環境 第14回：環境を通した教育・保育の現在の課題 第15回：まとめ			
【テキスト】「環境構成の理論と実践 保育の専門性に基づいて」高山静子：著 郁洋舎 「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」酒井幸子ほか：編著 萌文書林			
【参考書・参考文献等】 適宜ハンドアウト等を配布。試験に関する内容のため各自ファイリングし復習すること。			
【学生に対する評価】 講義聴講・GW等への参加姿勢(30%) リアクションペーパーの内容(30%) テスト(40%)			
【履修にあたっての留意点】 保育者として求められる基本姿勢を本講義でも求めていく。			
【実務経験】 仙台市立保育所や大学附属幼稚園勤務の経験および、自身の研究テーマである「森の幼稚園」などから保育における環境に関して、実践と理論の両面からの学びを提供していく。			

授業科目名： 人間関係の指導法	授業形態： 演習	授業担当者： 澤瀬 文子（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 幼児期における人とのかかわる力の形成要因を理解し、幼児の発達にふさわしい保育を具体的に構想し、実践する方法を習得する。 [授業の概要] 幼児教育の基本と領域「人間関係のねらい及び内容、乳幼児期および学童期の社会性の発達、幼児理解に基づいた教材研究や環境構成、模擬保育やロールプレイとその振り返り			
[授業計画] 第 1 回：人とかかわりの基礎を育てるとは 第 2 回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本 第 3 回：領域「人間関係」の概要 第 4 回：人とかかわる力が育っていくプロセス 第 5 回：子どもたちの気持ちと向き合うとは ―「折り合い」をつけること― 第 6 回：子どもたちの関係を育てる保育 第 7 回：いざこざと保育者の役割 第 8 回：個と集団の育ちと保育者の役割 第 9 回：遊びの中での人とかかわり 第 10 回：ロールプレイを通じて 第 11 回：事例を通じて 第 12 回：人間関係をどう記録するか 第 13 回：さまざまな連携 ―園、家庭、地域― 第 14 回：学童期以降の生活 第 15 回：領域「人間関係」をめぐる諸問題・総括			
[テキスト] 『最新保育講座 8 保育内容「人間関係」』森上史郎・小林紀子・渡辺英則編 ミネルヴァ書房			
[参考書・参考文献等] 「保育資料集」子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房 ほかに適宜視聴覚教材使用			
[学生に対する評価] 学習内容の振り返りレポート、授業に取り組む姿勢、試験			
[履修にあたっての留意点] 学生の主体的参加を期待する観点から、教科書の予習を行い自らの実習での体験を踏まえて問題意識を持って臨んでもらいたい。			
[実務経験] 保育園巡回相談員としての実務経験を活かし、より実践的な遊びの提案や支援の方法について演習を行います。			

授業科目名： 環境の指導法	授業形態： 演習	授業担当者 松好伸一 中西俊紀	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 「環境による保育」の理念・意味の理解。環境が幼児の発達にどのような影響を及ぼすのか、また幼児が自ら環境に働きかけるとは等について学び、保育環境についての学びを深める。 【授業の概要】 テキスト及びハンドアウトなどを利用し理論学習を進めながら、グループワークを通して様々な考え方を検討する。「誰のための環境なのか」「環境整備の目的とは」など具体的にグループワークに取り組むことで、学びを深めていく。 【授業計画】 第 1 回：授業ガイダンス・評価の方法など 第 2 回：幼児教育の基本と保育内容「環境」 第 3 回：現代の子どもを取り巻く環境と領域「環境」 第 4 回：子どもの発達と領域「環境」 第 5 回：子どもと園の環境・環境構成と保育者の役割 第 6 回：領域「環境」のねらいと内容の展開の実際 第 7 回：自然に親しみ、植物にふれる保育の実際（フィールドワーク） 第 8 回：自然を取り入れた遊びを考える 第 9 回：標識・文字等に関わる保育の実際 第 10 回：数量・図形等に関わる保育の実際 第 11 回：生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際 第 12 回：身近な素材を用いた保育の実際（計画立案） 第 13 回：身近な素材を用いた保育の実際（素材収集・製作） 第 14 回：身近な素材を用いた保育の振り返り 環境に関わる現代的課題(グループワーク) 第 15 回：まとめ 【テキスト】「環境構成の理論と実践 保育の専門性に基いて」高山静子：著 郁洋舎刊 『体験する 調べる 考える 領域「環境」』田宮縁：著 萌文書林刊 【参考書・参考文献等】 適宜ハンドアウト等を配布。試験に関する内容のため各自ファイリングし復習すること。 【学生に対する評価】 講義聴講・GW 等への参加姿勢(30%) リアクションペーパーの内容(30%) テスト(40%) 【履修にあたっての留意点】 保育者として求められる基本姿勢を本講義でも求めていく。 【実務経験】 仙台市立保育所や大学附属幼稚園勤務の経験および、自身の研究テーマである「森の幼稚園」などから保育における環境に関して、実践と理論の両面からの学びを提供していく。			

授業科目名： 言葉の指導法	授業形態： 演習	授業担当者： 渡邊 好美（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する具体的・実践的方法を身につける。 【授業の概要】 乳幼児期の言葉の発達、保育内容言葉の内容とねらい、言葉を豊かにする児童文化財について解説する。これらの知識を基に教材研究及び演習等を通し、子どもの言葉を豊かにする児童文化財に触れ、保育者の役割と援助が言葉の育ちへ与える影響を考察する。			
【授業計画】 第 1 回：保育における「言葉」とは一領域「言葉」のねらいと内容 第 2 回：ことばを育む保育の実際Ⅰ：ことばを育む保育者の役割と援助 第 3 回：ことばを育む保育の実際Ⅱ：子どもの生活とことば 第 4 回：ことばを育む保育の実際Ⅲ：子どもの遊びとことば 第 5 回：ことばを育む保育の実際Ⅳ：「聞く」ことを通した体験 第 6 回：ことばを育む保育の実際Ⅴ：「話す」ことを通した体験 第 7 回：ことばを育む保育の実際Ⅵ：書きことばが伝える世界 第 8 回：ことばを育てる児童文化財～保育における児童文化財の活用～ 第 9 回：ことばを育てる児童文化財～指導計画と指導の実際～ 第 10 回：ことばを育てる活動実践と教材研究①絵本、紙芝居 第 11 回：ことばを育てる活動実践と教材研究②手遊び・言葉遊び 第 12 回：ことばを育てる活動実践と教材研究③ペープサート・劇遊び 第 13 回：ことばを育てる活動の計画立案①指導計画立案 第 14 回：ことばを育てる活動の計画立案②指導計画に基づく実践 第 15 回：統括			
【テキスト】 『新版・保育内容・言葉』福沢周亮監修 教育出版			
【参考書・参考文献等】 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
【学生に対する評価】 学習意欲、課題レポート、試験などで総合的に評価する。			
【履修にあたっての留意点】 言葉の発達について保育実践事例を学びながら、教材研究・指導計画の立案及び実践演習を通し、保育における言葉の指導法について理解を深めてほしい。			
【実務経験】 幼稚園教諭としての実務経験を基に、領域「言葉」のねらいと内容の理解や言葉にかかわる具体的な保育の指導法について演習を行う。			

授業科目名： 表現技術Ⅰ	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 磯貝友絵・高橋摩利子 菅原智恵・八木絵未	単位数： 1 単位
科目の種別： 選択必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 音楽で習得した音楽的基礎知識や技能をもとに、より高度の幼児音楽教育技術を身につける。曲想や音楽を特徴づけている要素を感じ取って表現ができるようにする。 また、鑑賞などにより音楽体験の幅を広げ音楽の楽しみを見出す。 [授業の概要] 様々なピアノ曲や、子どもの歌の弾き歌いに取り組み、ピアノ技能を高めるとともに子どもの音楽活動を支えるピアノ伴奏、歌唱表現も学ぶ。			
[授業計画] 第1回：授業の概要について、子どもの歌の弾き歌い（実習で使う曲） 第2回：調、練習曲、子どもの歌の弾き歌い（実習で使う曲） 第3回：主要三和音、練習曲、子どもの歌の弾き歌い（実習で使う曲） 第4回：主要三和音、練習曲、子どもの歌の弾き歌い（実習で使う曲） 第5回：コードネーム、練習曲 第6回：鑑賞 第7回：コードネーム、練習曲、子どもの歌の弾き歌い（季節の歌） 第8回：コード伴奏、練習曲、子どもの歌の弾き歌い(季節の歌) 第9回：コード伴奏、子どもの歌の弾き歌い(季節の歌) 第10回：コード伴奏、子どもの歌の弾き歌い(季節の歌) 第11回：音楽用語、子どもの歌の弾き歌い(自由曲) 第12回：子どもの歌の弾き歌い(自由曲) 第13回：子どもの歌の弾き歌い(自由曲) 第14回：子どもの歌の弾き歌い(自由曲) 第15回：まとめ			
[テキスト] 「大学ピアノ教本」 「ポケットいっぱいうた」 教育芸術社			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 授業担当者全員による評価。主に実技試験で評価する。但し、レッスン時の態度、普段の練習に対する意欲など加味する。			
[履修にあたっての留意点] 必ず練習してから授業に臨むこと。			
[実務経験] ピアノ教室でのピアノ指導経験や他校種での音楽教育の実務経験を生かし、ピアノ実技指導や歌唱表現指導等行う。			

授業科目名： 保育内容総論	授業形態： 演習	授業担当者：（複数） 磯貝友絵・渡邊好美 現役保育者他	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解し、さらに各章のつながりや保育の全体的な構造の理解を促す。			
[授業の概要] 保育の学びのスタートである学生が、保育及び施設の現場の状況を具体的にイメージし、保育内容を理解できるようにするため、各方面で実務に携わっている先生による講義及び演習を中心とする。			
[授業計画] 第1回：保育内容とは 第2回：保育所保育指針における保育内容（幼保連携型認定こども園教育・保育要領含む） 第3回：幼稚園教育要領における保育内容（ ” ） 第4回：保育内容の実際①（保育者のかかわり・環境構成他） 第5回：保育所保育について （現役保育士） 第6回： ” （ ” ） 第7回：幼稚園教育について （現役幼稚園教諭） 第8回： ” （ ” ） 第9回：児童福祉施設の現状 （児童福祉施設・施設長） 第10回：児童福祉施設の生活と支援（ ” ） 第11回：保育内容の実際②（事例研究・教材研究等） 第12回：保育内容の実際③（ ” ） 第13回：保育内容の実際④（ ” ） 第14回：保育内容の実際⑤（ ” ） 第15回：まとめ			
[テキスト] 特になし			
[参考書・参考文献等] 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 「幼稚園教育要領ハンドブック」「保育所保育指針ハンドブック」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領ガイドブック」			
[学生に対する評価] 講師による講義のまとめをレポート提出し、その内容から評価する。			
[履修にあたっての留意点] 専門職に携わる講師による演習から、実際の保育内容を学びつつ、見聞を広める機会にしてほしい。			
[実務経験] 保育職として幼児教育の現場での実務経験を基に、保育の全体構造の理解を援助する。			

授業科目名： 乳児保育Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 澤瀬 文子（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 乳児保育への社会的期待の高まりや制度的改変を踏まえて、実践の基礎となる基本的知識を学習する 【授業の概要】 乳児の発達と保育、乳児保育の内容と方法、子どもの発達・親の発達、乳児保育の現状と課題			
【授業計画】 第 1 回：発達における乳児期の重要性 第 2 回：0 歳児の発達の特徴と保育の中で大切にしたいこと 第 3 回：1 歳児の発達の特徴と保育の中で大切にしたいこと 第 4 回：2 歳児の発達の特徴と保育の中で大切にしたいこと 第 5 回：基本的生活の内容と方法 ①0 歳児 第 6 回：基本的生活の内容と方法 ②1 歳児 第 7 回：基本的生活の内容と方法 ③2・3 歳児 第 8 回：遊びの特徴と内容 第 9 回：保育計画・指導計画 第 10 回：乳児保育と「3 歳児神話」 第 11 回：親としての発達 第 12 回：乳児保育の歩みと現状 第 13 回：子育て家庭の実情と子育て支援 第 14 回：新たな共生に向けて 第 15 回：総括			
【テキスト】 「新版資料で分かる乳児の保育新時代」（乳児保育研究会編、ひとなる書房）			
【参考書・参考文献等】 「保育資料集」子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房 ほかに適宜視聴覚教材使用			
【学生に対する評価】 授業に取り組む姿勢、レポート、試験			
【履修にあたっての留意点】 学生の主体的参加を期待する観点から、教科書の予習を行い自らの実習での体験を踏まえて問題意識を持って臨んでもらいたい。			
【実務経験】 心理職として乳幼児健診等での相談業務に従事した実務経験を活かし、子どもの発達の变化とそれに対応した大人のかかわりについて講義する。			

授業科目名： 乳児保育Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 高木 宏子（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 ① 乳児保育の基本の理解を深める ② 乳児保育の具体的な方法や、環境と援助を理解する ③ 乳児保育における指導計画の作成の実際について具体的に理解する 【授業の概要】 「乳児保育Ⅰ」での学びを踏まえ、実践事例を取り入れながら、さらに乳児理解を深める。乳児期の一人一人の子どもを尊重した保育の具体的な方法を理解し、実践力を養う。 乳児保育のテキストやハンドアウトの他、事例を通してグループディスカッションやグループワーク、グループ発表等、演習を行い、保育士としての基本的スキルを身につけ、子どもの発達支援をする専門職としての意識を高める。			
【授業計画】 第 1 回：乳児保育の基本①（乳児の主体を尊重した生活と遊び） 第 2 回：乳児保育の基本②（子どもを理解した援助・受容的応答的関わり） 第 3 回：食事の環境と援助（調乳・授乳） 第 4 回：食事の環境と援助（離乳食・幼児食） 第 5 回：排泄の環境と援助 第 6 回：睡眠・休息の環境と援助 第 7 回：着脱・清潔に関する環境と援助 第 8 回：乳児保育における健康と安全 第 9 回：乳児（0 歳児）の発達を踏まえた生活と遊びの実際・保育士の援助 第 10 回：乳児（1 歳以上 3 歳未満児）の発達に応じた生活と遊びの実際①・保育士の援助 第 11 回：乳児（1 歳以上 3 歳未満児）の発達に応じた生活と遊びの実際②・保育士の援助 第 12 回：乳児保育を支える連携（職員・保護者） 第 13 回：乳児保育における指導計画と評価①（グループワーク） 第 14 回：乳児保育における指導計画と評価②（グループ発表） 第 15 回：まとめ レポート			
【テキスト】 厚生労働省 平成 30 年 3 月版「保育所保育指針解説」フレーベル館 ハンドアウトを配布する			
【参考書・参考文献等】			
【学生に対する評価】 講義聴講等への参加姿勢(30%) リアクションペーパーの内容(30%) テスト(40%)			
【履修にあたっての留意点】 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする			
【実務経験】 公立幼稚園・保育園（現在に至る）での実務経験を生かした実践事例を交えながら講義・演習を行う。グループワーク等では、多角的な捉えを学ぶ等、より具体的実践的に理解を深めていく。			

授業科目名： 社会的養護Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 佐々木千枝（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 社会的養護の内容、アセスメントと支援計画、記録と自己評価、専門的技術など、実践的な事項を理解する。 [授業の概要] 1 年次に学んだ「社会的養護Ⅰ」について、より実践的な視点で学んでいきます。 演習を通じて、自ら考え、さらに専門的な学びを深めていきましょう。			
[授業計画] 第 1 回：子どもの権利擁護 第 2 回：社会的養護における子どもの理解 第 3 回：社会的養護の内容①日常生活支援 第 4 回：社会的養護の内容②心理的支援 第 5 回：社会的養護の内容③自立支援 第 6 回：施設養護の生活特性および実際①乳児院等 第 7 回：施設養護の生活特性および実際②障害児施設等 第 8 回：家庭養護の生活特性および実際 第 9 回：アセスメントと個別支援計画の作成 第 10 回：記録および自己評価 第 11 回：社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 第 12 回：社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 第 13 回：社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） 第 14 回：社会的養護における家庭支援 第 15 回：社会的養護の展望と課題・まとめ			
[テキスト] 『社会的養護Ⅱ（新・基本保育シリーズ⑱）』 中央法規			
[参考書・参考文献等] 必要に応じて、資料を配布します。			
[学生に対する評価] 授業への姿勢、小レポート、試験で総合的に評価します。			
[履修にあたっての留意点] 授業中にディスカッションすることや、小レポート記入の時間を設けることがあります。			
[実務経験] 障害者支援施設（16 年）スクールソーシャルワーカー（6 年）岩手県強度行動障害支援者養成研修講師（継続中）など			

授業科目名： 社会福祉	授業形態： 講義	授業担当者： 佐々木 千枝（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 社会福祉の意義について、歴史・制度の側面から学びます。また、現代の多様な家庭における子どもの支援について、保育士として必要な利用者の理解、支援方法を学んでいきます。 【授業の概要】 上記のテーマに沿って、講義形式にて、分かりやすく皆さんにお伝えします。一緒に、これから関わる子どもと子どもを取りまく環境について、社会福祉の視点から学んでいきましょう。			
【授業計画】 第 1 回：社会福祉の理念と歴史的変遷 第 2 回：子ども家庭支援と社会福祉 第 3 回：社会福祉の制度と法体系 第 4 回：社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 第 5 回：社会福祉の専門職 第 6 回：社会保障および関連制度の概要 第 7 回：相談援助の理論 第 8 回：相談援助の意義と機能 第 9 回：相談援助の対象と過程 第 10 回：相談援助の方法と技術 第 11 回：社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 第 12 回：少子高齢化社会にける子育て支援 第 13 回：共生社会の実現と障害者施策 第 14 回：在宅福祉・地域福祉の推進 第 15 回：諸外国の社会福祉の動向・まとめ			
【テキスト】 『社会福祉（新・基本保育シリーズ④）』 中央法規			
【参考書・参考文献等】 必要に応じて、随時、資料を配布します。			
【学生に対する評価】 授業への姿勢、小レポート、試験で総合的に評価します。			
【履修にあたっての留意点】 授業中にディスカッションすることや、小レポート記入の時間を設けることがあります。			
【実務経験】 障害者支援施設（16 年）スクールソーシャルワーカー（6 年）岩手県強度行動障害支援者養成研修講師（継続中）など			

授業科目名： 子育て支援	授業形態： 演習	授業担当者： 高木 宏子（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] ① 保育所における子育て支援の基本を理解する ② 保育者による子育て支援の内容や方法等、事例を通して具体的実践的に理解を深めていく。 [授業の概要] 保育所における子育て支援保育士の職務の一つとなっている。「保護者に寄り添うこと」「子育てを支援すること」等について、保育士としてできることを、演習を通して考えていく。 乳児保育のテキストやハンドアウトの他、事例を通してグループワーク等、演習を行い、保育士としての基本的スキルを身につけ、子どもの発達支援をする専門職としての意識を高める。			
[授業計画] 第 1 回：子育て支援とは 第 2 回：子育て支援の意義 第 3 回：子育て支援の基本的価値・倫理 第 4 回：子育て支援の基本的姿勢 第 5 回：子育て支援の基本的技術 第 6 回：園内・園外との連携と社会資源 第 7 回：記録・評価・研修 第 8 回：日常会話を活用した子育て支援 第 9 回：文書を利用した子育て支援 第 10 回：行事などを活用した子育て支援 第 11 回：環境を活用した子育て支援 第 12 回：地域子育て支援拠点における支援 第 13 回：入所施設における子育て支援 第 14 回：通所施設における子育て支援 第 15 回：まとめ レポート			
[テキスト] 厚生労働省 平成 30 年 3 月版「保育所保育指針解説」フレーベル館 萌文書林刊 子育て支援 15 のストーリーで学ぶワークブック ※ハンドアウトは適宜配布する			
[参考書・参考文献等]			
[学生に対する評価] 講義聴講等への参加姿勢(30%) リアクションペーパーの内容(30%) テスト(40%)			
[履修にあたっての留意点] 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする			
[実務経験] 公立幼稚園・保育園（現在に至る）での実務経験を生かした実践事例を交えながら講義・演習を行う。グループワーク等では、多角的な捉えを学ぶ等、より具体的実践的に理解を深めていく。			

授業科目名： 子ども家庭福祉	授業形態： 講義	授業担当者： 佐々木 千枝（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 1. こども家庭福祉に関する理念と制度を理解する。 2. 問題が発生している社会的背景について理解し、説明できる。 3. 実際の事例に関わった際に、支援方法や問題解決の方向性がイメージできる。 【授業の概要】 身近な事例を通して、子どもと家庭の両面から理解し、学びを深めていきます。 「自分ごと」として考える機会にしていきたいと思います。			
【授業計画】 第 1 回：子ども家庭福祉の理念と概念 第 2 回：子ども家庭福祉の歴史的変遷 第 3 回：子どもの人権擁護 第 4 回：子ども家庭福祉の制度と法体系 第 5 回：子ども家庭福祉の実施体系 第 6 回：児童福祉施設 第 7 回：子ども家庭福祉の専門職 第 8 回：少子化と地域子育て支援の現状と課題 第 9 回：母子保健と子どもの健全育成 第 10 回：多様な保育ニーズへの対応 第 11 回：児童虐待・DV とその防止 第 12 回：社会的養護 第 13 回：障がいのある子どもへの対応 第 14 回：貧困家庭、外国籍、少年非行等の子どもへの対応 第 15 回：子ども家庭福祉の動向と展望・まとめ			
【テキスト】 『事例で楽しく学ぶ 子ども家庭福祉』 中央法規			
【参考書・参考文献等】 必要に応じて、資料を配布します。			
【学生に対する評価】 授業への姿勢、小レポート、試験で総合的に評価します。			
【履修にあたっての留意点】 授業中にディスカッションすることや、小レポート記入の時間を設けることがあります。			
【実務経験】 障害者支援施設（16 年）スクールソーシャルワーカー（6 年）岩手県強度行動障害支援者養成研修講師（継続中）など			

授業科目名： 子どもの保健	授業形態： 講義	授業担当者：(単独) 都鳥 和理	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科2年	開講学期： 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 【授業の概要】 本授業の概要・計画は下記のとおりである。			
【授業計画】 第1回：子どもの発達・発育（1） 第2回：子どもの発達・発育（2） 第3回：子どもの発達・発育（3） 第4回：生理機能（1） 第5回：生理機能（2） 第6回：生理機能（3） 第7回：生理機能（4） 第8回：小児の主な病気（1） 第9回：小児の主な病気（2） 第10回：小児の主な病気（3） 第11回：小児の主な病気（4） 第12回：小児の主な病気（5） 第13回：小児の主な病気（6） 第14回：小児の主な病気（7） 第15回：まとめ			
【テキスト】 「子どもの保健Ⅰ」 佐藤 益子編著 ななみ書房			
【参考書・参考文献等】 特になし			
【学生に対する評価】 普段の授業態度、テスト及びレポートなどで評価する。			
【履修にあたっての留意点】 講義で強調した事項をよく筆記（ノート記入）し、理解すること。			
【実務経験】 小児科医として勤務している経験を生かし、最新の小児医学の情報をおりまぜて講義する。			

授業科目名： 子どもの健康と安全	授業形態： 演習	授業担当者： 佐々木 祐子（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 子ども一人ひとりが健康で安全な生活をするための、健康支援（保健活動の計画及び評価、健康状態並びに発育及び発達、健康増進、疾病への対応）、食育の推進（食育の環境の整備）、環境及び衛生管理並びに安全管理、災害への備え等について、保育者として具体的に実践できるようにする。 【授業の概要】 保育所全体における健康及び安全の確保について、また、実際に子どもと接することを想像しながら、子どもが自らの体や健康に関心をもち、心身の機能を高めていけるような方法等を学ぶ。			
【授業計画】 第 1 回：保育所保育方針の目指すもの、保育士養成課程について 第 2 回：子どもの健康と保育の環境 第 3 回：個別対応と集団全体の健康および安全の管理 第 4 回：衛生管理 第 5 回：事故防止および安全対策、危機管理、災害への備え 第 6 回：体調不良が発生した場合の対応 第 7 回：緊急を要する状況への対処方法、救命手当および救急蘇生法 第 8 回：感染症対策・集団発生の予防 第 9 回：感染症発生時と罹患後の対応、疾病の支援体制 第 10 回：保育における保健的対応 第 11 回：障害のある子どもへの対応 第 12 回：職員間の連携・協働と組織的取り組み 第 13 回：保健活動の計画および評価 第 14 回：地域との連携 第 15 回：まとめ			
【テキスト】 「子どもの健康と安全」 伊澤昭治、稲坂恵著 学建書院			
【参考書・参考文献等】 保育所保育指針解説 子どもの保健 保育現場における感染症の知識と対応 子どもの事故と応急手当 保育事故対応マニュアル			
【学生に対する評価】 レポート提出、定期考査			
【履修にあたっての留意点】 子どもの生命を預かる保育者という意識を念頭におきながら、保健的知識や技術を学んでほしい。			
【実務経験】 看護師としての総合病院での救急対応、感染症予防対策・医療安全対策管理等の経験を生かし、園児の健康及び安全について講義・演習を行います。			

授業科目名： 子ども家庭支援論	授業形態： 講義	授業担当者： 澤瀬 文子（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 子育てをしている家庭及び地域をも視野に入れた支援の基本と重要性を理解し、その支援方法について学習する 【授業の概要】 家庭支援の対象と役割、子どもと家庭、保育士による家庭支援、保育所・幼稚園における家庭支援、在宅子育て家庭への支援、要保護児童とその家庭への支援			
【授業計画】 第 1 回：家庭支援が求められる背景 第 2 回：家庭支援の対象と役割 第 3 回：現代家庭を取り巻く社会状況 第 4 回：少子社会と家族 第 5 回：保育士による家庭支援 第 6 回：家庭支援の展開 第 7 回：子どもと家庭を支援するサービス 第 8 回：我が国の子育て支援政策の流れ 第 9 回：保育所における子育て支援 第 10 回：幼稚園における子育て支援 第 11 回：在宅子育て家庭への支援 第 12 回：家庭支援の実際 ①障害を持つ子ども 第 13 回：家庭支援の実際 ②虐待 第 14 回：家庭支援の実際 ③保育に関する相談・助言 第 15 回：総括			
【テキスト】 「よくわかる家庭支援論」（橋本真紀、山縣文治編 ミネルヴァ書房）			
【参考書・参考文献等】 「保育資料集」子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房 ほかに適宜視聴覚教材使用			
【学生に対する評価】 授業に取り組む姿勢、レポート、試験			
【履修にあたっての留意点】 学生の主体的参加を期待する観点から、教科書の予習を行い自らの実習での体験を踏まえて問題意識を持って臨んでもらいたい。			
【実務経験】 保育園巡回相談員としての実務経験をもとに、家庭支援が求められる社会的背景と併せて継続的な支援の方法について学ぶ。			

授業科目名： 保育実習Ⅰ	授業形態： 実習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 4単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数：	対象学生： 保育科1年・2年	開講学期：1年後期（施設） 2年前期（保育所）
[授業の到達目標及びテーマ] 1 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2 子どもの観察や記録、子どもへの援助やかかわりを通して“子ども理解”を深めるようにする。 3 既習の教科の内容を踏まえ保育及び保護者への支援についても総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。 [授業の概要] 概要・計画は、下記のとおり。			
[授業計画] 1 実習時期 1年後期（施設） 2年前期（保育所） 2 日数 20日間 10日間（保育所） 10日間（施設） 3 実習施設 保育所及び乳児院 母子生活支援施設 児童養護施設 障害児入所支援施設 児童自立支援施設 児童発達支援センター 情緒障害児短期治療施設 障害者支援施設 児童相談所一時保護施設 指定障害者福祉サービス事業所 又は独立行政法人国立知的障害者総合施設のぞみの園 4 実習内容 ① 実習オリエンテーション ② 観察実習・参加実習・責任実習 ③ 部分実習（手遊び・絵本や紙芝居の読み聞かせ） ④ 部分実習（活動の計画と実施） ⑤ 記録・反省評価			
[テキスト] 「学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」 大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著 中央法規 「施設実習ガイド」駒井美智子編 萌文書林 「最新保育資料集」「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領ハートブック」学研 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「保育所保育指針ハートブック」学研 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハートブック」学研 「新版 日用語新字典」高橋書店			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 実習評価の結果の他、報告書の提出等を考慮し評価する。			
[履修にあたっての留意点] 保育の実践を学ぶ実習であるので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。また、実習日誌等の提出期限は厳守すること。			
[実務経験] 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導者と連携し、巡回訪問指導において、実習内容について確認・助言する。			

授業科目名： 保育実習指導Ⅰ	授業形態： 演習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 30回	対象学生： 保育科1年・2年	開講学期： 1年通年・2年前期
[授業の到達目標及びテーマ]			
保育実習指導Ⅰの目標は、保育実習の意義・目的を理解することである。次に実習内容については、実習段階を踏んで理解していき、自分の課題を明確にする。また実習に際しての守秘義務等について理解を促すと共に実習生としての心構えをもてるようにする。			
さらに実習における観察、記録、評価及び計画について具体的に理解していく。			
事後指導としては、報告会、事後の書類整理、課題の明確化、実習評価のスーパーバイズ等を行い、次の実習指導につなげていく。			
[授業の概要] 概要・計画は右記のとおり。			
[授業計画]			
1年次			
第1回：保育実習について（目的・概要・日程）		第16回：実習直前の確認と準備	
第2回：保育のこころとマナー（DVD）		第17回：施設実習の振り返り	
第3回：児童福祉施設の機能と役割（DVD）		第18回：施設実習報告会	
第4回：実習体験を通して学ぶ（DVD）		第19回：施設実習評価のスーパーバイズ①	
第5回：保育園実習の実際		第20回：施設実習評価のスーパーバイズ②	
第6回：施設実習の実際、実習園希望調査		第21回：保育所実習の実習計画、記録の実際	
第7回：保育実習の段階		第22回：部分実習指導案	
第8回：施設実習の内容①		第23回：部分実習指導案	
第9回：施設実習の内容②		2年次	
第10回：施設実習の実習計画、記録の実際①		第24回：保育所実習関係書類作成	
第11回：記録の実際②		第25回：保育所実習オリエンテーションについて	
第12回：施設実習関係書類作成		第26回：保育所実習オリエンテーション	
第13回：施設実習関係書類配布		第27回：保育所実習振り返り	
第14回：施設実習オリエンテーションについて		第28回：実習報告会	
第15回：施設実習オリエンテーション		第29回：保育所実習評価のスーパーバイズ①	
		第30回：保育所実習評価のスーパーバイズ②	
[テキスト] 保育実習Ⅰと同様			
[参考書・参考文献等] 保育実習Ⅰと同様			
[学生に対する評価]			
定期試験の結果の他、報告書等の提出、実習のための事前の準備や事後の整理の状況を総合的に判断し評価する。			
[履修にあたっての留意点]			
実習に関する実践的な学習の場であるので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。また、提出期限は厳守すること。			
[実務経験]			
保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導を行う。			

授業科目名： 保育実習Ⅱ又はⅢ	授業形態： 実習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数：	対象学生： 保育科2年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 1 保育所、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2 子どもの観察や関わりの視点を明らかにすることを通して、保育の理解を深める。 3 実践を通して、施設における支援の実際を学び、知識、技術、判断力を養う。 4 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 5 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について取り組み、理解を深める。 6 保育士の業務内容や職業倫理について、実践に結びつけて理解する。 [授業の概要] 以下の通り			
[授業計画] 1 実習時期 2年前期 2 日数 10日間 3 実習施設 保育実習Ⅱ 保育所 保育実習Ⅲ 乳児院 母子生活支援施設 児童養護施設 障害児入所支援施設 児童発達支援センター 情緒障害児短期治療施設 児童自立支援施設 障害者支援施設 指定障害者福祉サービス事業所 児童相談所一時保護施設 又は独立行政法人国立知的障害者総合施設のぞみの園 4 実習内容 ① 実習オリエンテーション ② 観察実習・参加実習・責任実習 ③ 部分実習（手遊び、絵本・紙芝居の読み聞かせ、活動等） ④ 全日実習（計画と実施）⑤ 記録・反省評価			
[テキスト] 「教育・保育実習安心ガイド」阿部 恵・鈴木みゆき著 ひかりのくに 「施設実習ガイド」駒井美智子編 萌文書林 「最新保育資料集」「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領ハトブック」学研 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「保育所保育指針ハトブック」学研 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハトブック」学研 「新版 日用語新字典」高橋書店			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 実習評価の結果の他、報告書の提出等を考慮し評価する。			
[履修にあたっての留意点] 保育の実践を学ぶ実習であるので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。また、実習日誌等の提出期限は厳守すること。			
[実務経験] 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導者と連携し、巡回訪問指導において、実習内容について確認・助言する。			

授業科目名： 保育実習指導Ⅱ又はⅢ	授業形態： 演習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 保育実習指導Ⅱ又はⅢの目標は、保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に学ぶことである。次に実習や既習の教科の内容を踏まえ、保育実践力を培っていく。また保育の観察、記録及び反省、評価等を踏まえて改善するべき点を学び、さらに保育の専門性と職業倫理について理解をする。 実習の事後指導を通して、自己評価を行い、自己の課題や認識を明確にする。 【授業の概要】 以下の通り 【授業計画】 第 1 回：保育実習Ⅱ又はⅢについて(目的・概要・日程) 第 2 回：実習関係書類の下書き、作成 第 3 回：実習関係書類配布 第 4 回：保育実習Ⅱ又はⅢオリエンテーションについて 第 5 回：指導計画立案 第 6 回：保育実習の心構え、注意事項 第 7 回：保育実習Ⅱ又はⅢの報告会（グループ別①） 第 8 回：保育実習Ⅱ又はⅢの報告会（グループ別②） 第 9 回：保育実習評価のスーパーバイズ① 第 10 回：保育実習評価のスーパーバイズ② 第 11 回：うれしたのしだいすき打ち合わせ 第 12 回：うれしたのしだいすき練習 第 13 回：〃 第 14 回：うれしたのしだいすき発表会（1・2 年生全体） 第 15 回：実習の振り返り 【テキスト】 保育実習Ⅱ又はⅢと同様 【参考書・参考文献等】 保育実習Ⅱ又はⅢと同様 【学生に対する評価】 定期試験の結果の他、報告書等の提出、実習のための事前の準備や事後の整理の状況を総合的に判断し評価する。 【履修にあたっての留意点】 実習に関する実践的な学習の場であるので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。また、提出期限は厳守すること。 【実務経験】 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導を行う。			

授業科目名： 社会的養護Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 佐々木千枝（単独）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 社会的養護の理念・概念、基本原則、制度と現状など、基礎的な事項を理解する。 【授業の概要】 子ども家庭福祉でも取り上げた「社会的養護」について、より詳しく、その基本を学んでいきます。演習を交えながら、将来保育士として何ができそうかを一緒に考えていきましょう。			
【授業計画】 第1回：社会的養護の理念と概念 第2回：社会的養護の歴史的変遷 第3回：子どもの人権擁護と社会的養護 第4回：社会的養護の基本原則 第5回：社会的養護における保育士等の倫理と責務 第6回：社会的養護の制度と法体系 第7回：社会的養護の仕組みと実施体系 第8回：社会的養護とファミリーソーシャルワーク 第9回：社会的養護の対象と支援のあり方 第10回：家庭養護と施設養護 第11回：社会的養護にかかわる専門職 第12回：社会的養護に関する社会的状況 第13回：施設等の運営管理の現状と課題 第14回：被措置児童等の虐待防止の現状と課題 第15回：社会的養護と地域福祉の現状と課題・まとめ			
【テキスト】 『社会的養護Ⅰ（新・基本保育シリーズ⑥）』 中央法規			
【参考書・参考文献等】 必要に応じて資料を配布します。			
【学生に対する評価】 授業への姿勢、小レポート、試験で総合的に評価します。			
【履修にあたっての留意点】 授業中にディスカッションすることや、小レポート記入の時間を設けることがあります。			
【実務経験】 障害者支援施設（16年）スクールソーシャルワーカー（6年）岩手県強度行動障害支援者養成研修講師（継続中）など			

授業科目名： 保育原理	授業形態： 講義	授業担当者： 渡邊 好美（単独）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 乳幼児期における保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度の理解をすると共に、保育の思想と歴史的変遷及び保育の現状と課題についての理解を深める。 【授業の概要】 保育所保育指針における保育の基本について、乳幼児を取り巻く環境の変化に伴う保育の現状を踏まえ、実践をイメージできる学びにつながる講義の展開をする。			
【授業計画】 第1回：保育の理念と概念 ① 保育と教育 第2回： " ② 保育の倫理と保育マインド 第3回：保育の社会的役割と責任 第4回：子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令 第5回：保育の実施体系 第6回：保育所保育指針に基づく保育 第7回：保育の目標と方法 第8回：乳児の保育 第9回：1歳以上3歳未満児の保育 第10回：3歳以上児の保育 第11回：子ども理解に基づく保育の過程①理論編 第12回： " ②実践編 第13回：日本、諸外国の保育の思想と歴史 第14回：日本の保育の現状と課題 第15回：まとめ			
【テキスト】 基本保育シリーズ①「保育原理」 天野 珠路、北野 幸子編集 中央法規出版			
【参考書・参考文献等】 保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 視聴覚教材 他			
【学生に対する評価】 授業態度、課題提出、試験など総合的に評価する。			
【履修にあたっての留意点】 学生一人一人が具体的な保育者としてのイメージを持てるよう、主体的に学ぶ姿勢で臨んでほしい。			
【実務経験】 幼稚園教諭としての実務経験を基に、子ども理解等の保育の基本の理解が深まるよう講義する。			

授業科目名： 特別支援教育概論	授業形態： 演習	授業担当者： 佐々木千枝（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 30 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 通年
【授業の到達目標及びテーマ】 特別支援教育の理念、制度、対象となる子どもへの理解、指導・支援のあり方、幼稚園における特別支援、幼稚園と他校種・他機関等との接続・連携などを理解する。			
【授業の概要】 教科書に即して、特別支援教育の理念や制度、教育的ニーズの理解、支援内容・方法等を学習する。			
【授業計画】 第 1 回：特別支援教育とは 第 2 回：「生きることの困難」と「障害」を知る 第 3 回：障害者権利条約と合理的配慮 第 4 回：視覚障害、聴覚障害の理解と支援① 第 5 回：視覚障害、聴覚障害の理解と支援② 第 6 回：知的障害の理解と支援① 第 7 回：知的障害の理解と支援② 第 8 回：肢体不自由の理解と支援① 第 9 回：肢体不自由の理解と支援② 第 10 回：病弱の理解と支援① 第 11 回：病弱の理解と支援② 第 12 回：自閉スペクトラム症、情緒障害の理解と支援① 第 13 回：自閉スペクトラム症、情緒障害の理解と支援② 第 14 回：注意欠陥・多動症の理解と支援① 第 15 回：注意欠陥・多動症の理解と支援②		第 16 回：限局性学習障害の理解と支援① 第 17 回：限局性学習障害の理解と支援② 第 18 回：多文化を生きる子どもへの理解と支援① 第 19 回：多文化を生きる子どもへの理解と支援② 第 20 回：貧困を生きる子どもへの理解と支援① 第 21 回：貧困を生きる子どもへの理解と支援② 第 22 回：多様な性を生きる子どもへの理解と支援① 第 23 回：多様な性を生きる子どもへの理解と支援② 第 24 回：特別支援教育における多様な学びの場 第 25 回：多様な学びの場を支える支援体制 第 26 回：一人一人の教育的ニーズに応じた教育とは 第 27 回：「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」～作成の意義とその方法～ 第 28 回：子どもへの心理的支援とその実際 第 29 回：保護者への心理的支援とその実際 第30回：まとめ ～すべての子どもが自分らしく生きるために～	
【テキスト】 『すべての子どもに寄り添う特別支援教育』 ミネルヴァ 書房			
【参考書・参考文献等】 必要に応じて資料を配布します。			
【学生に対する評価】 授業への姿勢、小レポート、試験で総合的に評価します。			
【履修にあたっての留意点】 授業中にディスカッションすることや、小レポート記入の時間を設けることがあります。			
【実務経験】 障害者支援施設（16 年） スクールソーシャルワーカー（6 年） 岩手県強度行動障害支援者養成研修講師（継続中） など			

授業科目名： 幼稚園教育実習の 事前事後指導	授業形態： 実習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 2 4 回	対象学生： 保育科 1 年・2 年	開講学期： 1 年通年 2 年後期
【授業の到達目標及びテーマ】 保育者に求められる専門適所能力を中心に、今日における保育者の役割と使命を明らかにすることを目標とする。			
【授業の概要】 教職の意義および教育専門職としての教師（保育者）のあり方を理解するとともに、保育者に求められる資質、保育者自身が成長していくための姿勢や態度について学習する。			
【授業計画】 1 年次 第 1 回：教育実習について（目的・概要） 第 2 回：教育実習の実際 第 3 回：北上幼稚園プレ実習① 第 4 回：プレ実習①振り返り、記録について 第 5 回：北上幼稚園プレ実習② 第 6 回：プレ実習②振り返り、記録について 第 7 回：前期教育実習①の心がまえ 第 8 回：前期教育実習①の振り返り 第 9 回：前期教育実習②について 第 10 回：部分実習について 第 11 回：前期教育実習②の振り返り 第 12 回：前期教育実習の振り返り 第 13 回：前期教育実習報告会 第 14 回：前期教育実習のスーパーバイズ 第 15 回：後期教育実習について		第 16 回：後期教育実習関係書類の作成 2 年次 第 17 回：指導案作成について 第 18 回：後期教育実習オリエンテーション 第 19 回：後期教育実習振り返り 第 20 回：実習報告集作成について 第 21 回：後期教育実習評価のスーパーバイズ 報告集作成 第 22 回：後期教育実習評価のスーパーバイズ② 報告集作成 第 23 回：実習報告会 第 24 回：実習報告会（1、2 年合同）	
【テキスト】 幼稚園教育実習と同様			
【参考書・参考文献等】 幼稚園教育実習と同様。適宜授業中に資料を配付する。			
【学生に対する評価】 定期試験の他、報告書等の提出、実習のための事前の準備や事後の整理の状況を、総合的に評価する。			
【履修にあたっての留意点】 実習に関した重要な連絡事項や書類の作成などが多いので、欠席・遅刻などしないように注意すること。提出期限は厳守する。			
【実務経験】 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導を行う。			

授業科目名： 保育・教職実践演習(幼)	授業形態： 演習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 本講義を履修する者の専門科目の履修状況を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力の最終的な形成と確認を行う。 [授業の概要] 2 年間で学習・実習したことを深化・統合していく中で、教員として求められる 4 つの事項について再考する。また、現役幼稚園教諭による講義を取り入れ、現場が抱える様々な課題への対応、学級担任の役割や実務、他の教職員との協力の在り方についても確認する。さらに、様々な場面を想定した学生による“模擬授業”を実施し、資質能力の保管を行う。			
[授業計画] 第 1 回：これまでの学修についての講義・グループ討議 第 2 回：職務内容・園組織、保護者・地域の関係者に関する講義（現職教員による講義を含む） 第 3 回：幼児理解の講義・グループ討議（年齢による子どもの理解を含む） 第 4 回：学級経営に関する講義（3 歳児）・グループ討議（現職教員による講義を含む） 第 5 回：学級経営に関する講義（4 歳児）・グループ討議（現職教員による講義を含む） 第 6 回：学級経営に関する講義（5 歳児）・グループ討議（現職教員による講義を含む） 第 7 回：教科・保育内容等の指導力についての講義・グループ討議 第 8 回：教科・保育内容等の指導力についての講義・グループ討議 第 9 回：学級経営案の作成に関する講義 第 10 回：模擬授業実施に向けたグループ討議 第 11 回：グループごとの模擬授業・グループ討議 1 第 12 回：グループごとの模擬授業・グループ討議 2 第 13 回：グループごとの模擬授業・グループ討議 3 第 14 回：資質能力の確認（自己評価） 第 15 回：まとめ（履修カルテ返却）			
[テキスト] 各テーマ毎に担当教員の配布資料を使用する。			
[参考書・参考文献等] 「わかりやすい指導計画作成のすべて」 柴崎 正行編・著 フレーベル館			
[学生に対する評価] 模擬授業の状況、レポート提出から総合判断をする。			
[履修にあたっての留意点] 既習の授業や実習を通しての学びを振り返り、自分の課題を明確にすること、また本教科を通して明らかになった課題への取り組み方について学ぶ姿勢を持つよう努力すること。			
[実務経験] 幼稚園教諭として勤務経験のある教員を中心に、講義や演習を行う。			

授業科目名： 音楽	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 磯貝友絵・高橋摩利子 菅原智恵・八木絵未	単位数： 2単位	
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 30回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 通年	
[授業の到達目標及びテーマ] 保育者として必要な、音楽的基礎知識、基礎技能を中心に幼児音楽教育技術を身に付ける。				
[授業の概要] 楽譜を読む力を身に付けるために、音楽基礎理論の学習を行う。また、その理論をもとにしながら、ピアノの基本的技能を身に付ける。毎時間、基礎技能のためのピアノ練習曲と子どもの歌の弾き歌い曲課題に取り組む。				
[授業計画] 第1回：授業概要説明、実技導入指導 第2回：音名/ハ長調の和音 第3回：音の長さ/ハ長調の和音 第4回：音の長さ/ハ長調の和音、子どもの歌 第5回：拍子/ハ長調の和音、子どもの歌 第6回：拍子/ハ長調の和音、子どもの歌 第7回：音階/ハ長調の和音、子どもの歌 第8回：調/ト長調の和音 第9回：調/ト長調の和音、子どもの歌 第10回：調/ヘ長調和音 第11回：調/ヘ長調の和音、子どもの歌 第12回：記号/子どもの歌の弾き歌い 第13回：楽典まとめ/子どもの歌の弾き歌い 第14回：楽典まとめ/子どもの歌の弾き歌い 第15回：前期まとめ 〈上級者グループ〉 ピアノ経験者のある学生は、それぞれの進度に合わせた曲に取り組む。				第16回：練習曲・子どもの歌 第17回：短調/練習曲・子どもの歌 第18回：移調/練習曲・子どもの歌 第19回：移調/練習曲・子どもの歌 第20回：初見・子どもの歌 第21回：コード/練習曲・子どもの歌 第22回：コード/連弾・子どもの歌 第23回：コード/練習曲・子どもの歌 第24回：コード/練習曲・子どもの歌 第25回：音楽用語/練習曲・子どもの歌 第26回：音楽用語/練習曲・子どもの歌 第27回：楽典まとめ/練習曲 第28回：楽典まとめ/練習曲 第29回：楽典まとめ/練習曲 第30回：まとめ
[テキスト] 「大学ピアノ教本」教育芸術社 「ポケットいっぱいのうた」教育芸術社				
[参考書・参考文献等] 特になし				
[学生に対する評価] 授業担当者全員による評価。主に実技試験で評価する。但し、レッスン時の態度、普段の練習に対する意欲など加味する。				
[履修にあたっての留意点] 必ず練習してから授業に臨むこと。				
[実務経験] ピアノ教室でのピアノ指導経験や他校種での音楽教育の実務経験を生かし、ピアノ実技指導や基礎理論指導を行う。				